

EGGPLANT

ホームスクール通信 エッグプラント

那須ファミリー

2012.3.1

No.91

もうすぐ東北大震災から一年になるうとしています。テレビで多くの特集番組が流されることによって、遠く離れて住んでいる私たちにとっては「振り返らされる」ものですが、被災地に住む人々にとっては過去のことでなく、未だに目の前にある進行形の出来事でしょう。

二月に、三回目となる東北地方のボランティアに行きました。今回の活動場所は福島県いわき市でした。ベースキャンプは茨城県でした。津波の被害に会った所は、徐々にではありませんが、復興しつつあります。しかし、福島県の場合は避難されている方の多くは原発事故が原因です。家も畑も全く被害を受けていないのに、帰るめどが全く立ちません。

勿来(なこそ)の教会に行き、事務机等の搬入を手伝いました。これは「放射線測定器」を設置する事務所に必要な備品です。実は海外からこの機械を献品してもらうことになったのですが受け入れがスムーズにいきません。宮城県ではすでに数台稼働しているのですが、一番必要とされている福島県では遅れています。原因は受け体制が作れなかったということです。自分たちも被災者である現地の人たちは、なかなか対応できず高価な機器を設置し運用していくことができないのです。宮城県のように復興が

揺るがないものを見出した人々



進んでいるところとの違いが明確に表れています。受け入れ先のみどりが立ち、先に届いた事務用品を取りに行った所は、いわき市内のニュータウンにある教

会でした。その真ん中に大きな森林と湖があり、子どもたちの格好の遊び場になっていました。ところが放射線量が高くなってきたというのです。放射性物質が葉につき、それが落ちて、溜まってきたのでしょうか。結局、この公園は立ち入り禁止になりました。子どもたちが外でのびのびと遊ぶ場所がない。これが今一番の悩みだということです。

違う日には、工業団地の中に作られた仮設住宅に赴き、豚汁の炊き出しを手伝いました。その仮設は原発がある大熊町の人たちが入所されており、何度も仮設間を移動させられた人もいました。故郷へいつ帰れるかわからない人々の辛さは見ているだけでも心が痛みます。

ボランティアで活動している人たちの中にこの辛い経験を通して真の神に出会い、クリスチャンになった人がいました。そのような人たちは、自分たちが立ち返る「心のふるさと」があることを教えられ、それを信じ受け入れたのです。

次の話はイエスが語った有名な「放蕩息子」のたとえ話です。神から離れた人間を放蕩した弟に譬えています。これは放蕩を責めるた

めに語られたのではなく、放蕩息子の帰りを待っている父親の思いにまきかかっている神の愛を伝えたいからです。

「ある人に息子がふたりあった。

弟が父に、『おとうさん。私に財産の分け前を下さい。』と言った。それで父は、身代をふたりに分けてやった。それから、幾日もたたぬうちに、弟は、何もかもまとめて遠い国に旅立った。そして、そこで放蕩して湯水のようには財産を使ってしまった。何もかも使い果たしたあとで、その国に大ききんが起こり、彼は食べるにも困り始めた。それで、その国のある人のもとに身を寄せたところ、その人は彼を畑にやって、豚の世話させた。彼は豚の食べるいなご豆で腹を満たしたいほどであったが、だれひとり彼に与えようとはしなかった。しかし、我に返ったとき彼は、こう言った。『父のところには、パンのあり余っている雇い人が大ぜいいるではないか。それなのに、私はここで、飢え死にしようだ。立って、父のところに行って、こう言おう。』』

(ルカ十五書十一〜十八節)

自業自得とも言える放蕩息子に対しては神は帰ってくることを待っておられます。ましてや大きな災害に苦しむ人々をどれほどの思いで慈しんでおられるでしょうか。残念なのは、多くの日本人が、我に返った放蕩息子が「父」を思いだしたように、思い出せる「天の父」を知らない、ということなのです。放蕩息子は「何もかも使い果たしたあとで」父の有難さに気付いたのですが、「何もかも失ってしまったあとで」永遠に変わらなず、失われることのない大切なものを見出した人々もいるのです。みなさんはいかがですか。

お菓子作り

R

去年から私は、お菓子作りにはまっています。初めは、レシピを見て材料や器具がわからなかったけど、作っていくうちにわかってきました。一月の誕生日には、「ワッフルメーカー」を買ってもらって、いろんな種類を作ってみました。ザラメ・きび糖・クリスタルシュガー・喜界島ザラメ・三温糖などの色々な砂糖を使って工夫しました。また、粉は強力粉と薄力粉の配合を変えてみて一番おいしい生地を見つけました。生地の固さ・甘さ・形にも時間をかけて、何度も失敗しながら挑戦しました。

2012. 3. 1

エ ッ グ プ ラ ン ト

パン作りもお母さんと一緒に、ソーセージパン・くるみパン・チーズパンなどを作っています。フランスパンも作ったことがあります、なかなか上手に作れません。いろんな工夫をしておいしいフランスパンを作りたいと思って研究をしています。パウンドケーキやショートケーキも一人で作れるようになりました。ショートケーキは生クリームや果物でデコレーションするところがすごく楽しいです。

クリスマスにお姉ちゃんたちに「クッキー型」をもらったので型抜きクッキーも作ります。型抜きクッキーはかわいいのでプレゼントなどにもあげています。

もっといろんなお菓子を作ってみんなら食べてもらって喜んでほしいです。



「こんなことしました!」 行事報告

二月

- 一日 N・十六歳誕生日
- 九日 東北ボランティア(日立ベース)
- 十四日 音楽の集い
- 二十三日 Jクラブ「ドミノで遊ぼう」
- 二十八日 塗り絵・工作教室(ねんどで立体の勉強)

受験勉強

H

私にとってはとても長かった受験生活を終え、無事、看護専門学校に合格することができました。

私は幼い頃から看護師を目指していたので、前々から看護学校に行くことを決めていました。夏頃から色々な看護学校のオープンキャンパスに参加して志望校を決め、通信教材を用いたり、予備校の講習に行ったりしながら、勉強を進めてきました。しかし、自分の思い通りになかなか順調に進まないことも多くあり、何度も落ち込み、挫折を経験しました。その中で、浪人することになった兄と共に受験生として一年間一緒に勉強することができたことはとても心強かったです。また、同学年のホームスクーラーの友人たちとも色々情報交換したり、時には一緒に勉強会をしたりすることができました。

このよ
うな仲間
を与えて
くださった
神様に
感謝です。

「心を
尽くして
主に
拠り頼め。
自分の
悟りに
たよるな。
あなたの
行く

所どこにおいても、主を認めよ。そうすれば、主はあなたの道をまっすぐにされる。」

(箴言三章五、六節)

私は一年間、この聖書の御言葉を目標に挙げていました。しかし、自分の力では何もできないことを知りながら、なかなか神様にすべて委ね、信頼することができず、この御言葉を実行することの難しさを感じました。でも試験日がどんどん近づいていく中で、自分の力に限界を感じ、神様に信頼することしか私にはできないんだ、と身に染みて感じるようになりました。

今では心から「神様の守りと導きなければ決して合格することが出来なかった」と言うことができます。そして、集会の兄弟姉妹の祈り、またたくさんの方々の助け、支えにより合格することができたのだと確信しています。春からは八年ぶりの学校生活が始まります。看護師に向けて一歩前進することができましたが、私にとってはこれらがスタートです。今は新しい生活に対して不安もたくさんありますが、神様だけに信頼し、神様が導いて下さった学校で、一生懸命勉強していきます。

編集後記

Kはハンドマッサージの講習を受けてきました。正式には「ハンドリフレクソロジー」というそうです。習ったことを早速妻や子どもたちを相手に練習しています。評判はなかなかいいです。なかなか奥深いもので、研究途中ですが、よければ無料で施術します。